

1. 実況上の着目点

① 300hPa で-30℃以下の寒気を伴う上層寒冷低気圧 (UCL) が沖縄の南を西進。また、台風第13号が日本の南を北西進。上空寒気や台風周辺からの下層暖湿気の影響で、南西諸島では、大気の状態が不安定となり、活発に発雷、激しい雨を解析。太平洋高気圧と台風との間で気圧の傾きが大きくなり、やや強い風が吹いて、うねりを伴い波が高くなっている所がある。

② アリューシャンの南～東北地方～日本海～華北にのびる前線上の黄海をキंकが東進。前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、日本海では、雷を伴い非常に激しい雨を解析。

③ 西～東日本は、500hPa 5880m 以上の背の高い高気圧に覆われて晴れて気温が上昇、猛暑日となっている所がある。太平洋高気圧の縁を回る下層暖湿気の影響で、山地を中心に雷を伴い激しい雨を解析。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 南西諸島では13日は、1項①のUCLと台風周辺からの下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風に注意。

② 台風第13号は、日本の南を北西進し、14～15日は発達しながら南西諸島に接近・通過する。南西諸島や九州南部では台風周辺からの下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷や突風、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。また、南西諸島では14日は、猛烈な風が吹いて、14～15日は大しけとなる所がある。暴風に厳重に警戒し、高波に警戒。

③ 西～東日本と東北地方では15日にかけて、背の高い高気圧に覆われて晴れて気温が上昇し猛暑日となる所がある。熱中症に注意(熱中症警戒アラートを参照)。日射による昇温と太平洋高気圧の縁を回る下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょうに注意。

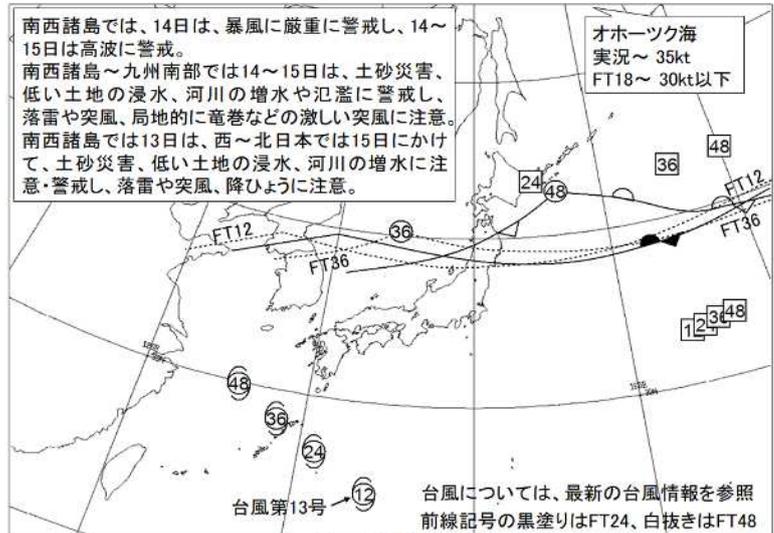
④ 1項②の前線上のキंकは14日にかけて日本海へ進み、14日夜までにキंक上に発生する低気圧が、15日にかけて発達しながら北日本を通過する。北日本では大気の状態が不安定となり、強い風が吹いて、波が高くなる所がある。落雷、突風、降ひょう、短時間強雨、強風、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ①雨量(18時からの24時間)：沖縄120、関東甲信・九州南部・奄美100mm。②波浪(明日まで)：奄美8、沖縄7、九州南部6、四国・九州北部4、近畿・伊豆諸島3m。

③高潮(明日まで)：西～東日本と南西諸島では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「台風第13号に関する情報(総合情報)」を17時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図